



平成30年度 被爆体験継承事業 企画展  
ヒロシマを記録し伝えた人たち  
— 未来への伝達 —

開催期間 平成30年7月7日(土)～8月31日(金)

【期間中の休館日】 月曜日(7月16日・8月6日を除く)、7月17日(火)、7月31日(火)、8月14日(火)

【期間中の開館時間】 火～金/9:00～19:00、土・日・7月16日(月・祝)・8月6日(月)/9:00～18:00

会場 広島市立中央図書館 2階 展示ホール **入場無料**  
(広島市中区基町3番1号)

講演会 「このままでは終わらない！」  
— ぼくがヒロシマを語ろうとするわけ —

講師 アーサー・ビナード氏(詩人)

日時 平成30年7月29日(日) 13:00～15:00



※申込方法など、詳細は裏面をご覧ください。

## 企画展／2階 展示ホール

被爆直後の広島では、多くの人や団体が救援・救護活動や被害状況の調査を行い、その記録によって被爆の惨状が国内外に伝えられました。

今年度は、「ヒロシマを記録し伝えた人・伝える人」に焦点をあて、被爆直後に記録を残した人や団体と、現在「ヒロシマの記録、記憶」を発信している人や団体を取り上げ、所蔵資料や写真パネルで紹介します。



「爆心地・資料採集中の調査団員」(1945年9月)  
林重男 / 撮影・広島平和記念資料館 / 提供



「京大調査隊による遺体解剖」(市民が描いた原爆の絵)  
内田栄一 / 作・広島平和記念資料館 / 所蔵



「ヒロシマ・アーカイブ」  
ヒロシマアーカイブ制作委員会 / 提供



「広島 原子爆弾による被害状況」  
長岡省吾 / 編  
〔長岡省吾〕 1953年



「原子爆弾災害調査報告集 第1分冊」  
日本学術会議原子爆弾災害調査報告書刊行委員会 / 編  
日本学術振興会 1953年



「オバマ大統領がヒロシマを訪れた日」  
広島テレビ放送 / 編  
ポプラ社 2016年



「さがしています」  
アーサー・ビナード / 作・岡倉禎志 / 写真  
童心社 2012年

## 講演会／3階 セミナー室 定員60名(先着順・無料)

著書や講演などで「原爆」や「平和」について伝えているアーサー・ビナード氏を講師に迎え、アメリカ出身である講師が、「ヒロシマ」を伝えたいと思ったきっかけや、これからどのように「ヒロシマ」を伝えていくかをお話いただきます。

講師 / アーサー・ビナード氏 (詩人)

タイトル / 「このままでは終わらない!」ーぼくがヒロシマを語ろうとするわけー

日時 / 平成30年7月29日(日) 13:00~15:00

申込方法 / 来館、電話、FAX、ホームページの専用フォーム

(平成30年7月1日(日) 9:00から受付開始)

※手話通訳、要約筆記が必要な方は、7月7日(土)までにお申し込みください。

※申込に際しての個人情報、この講演会のみで使用し、他に提供することはありません。

※この講演会は、広島市高齢者いきいき活動ポイント対象事業です。

### 講師プロフィール

詩人。昭和42年(1967年)、アメリカ・ミシガン州生まれ。ニューヨーク州のコルゲート大学で英文学を学び、平成2年(1990年)の卒業と同時に来日、日本語での詩作を始める。

詩集『釣り上げては』(思潮社)で中原中也賞、『日本語がこぼりこぼり』(小学館)で講談社エッセイ賞、『ここが家だ——ベン・シャーン第五福竜丸』(集英社)で日本絵本賞を受賞。また、平成29年(2017年)には早稲田大学坪内逍遙大賞奨励賞を受賞。

平成24年(2012年)に、第33回広島文化賞(公益財団法人ひろしま文化振興団体)を受賞。

主な作品には、エッセイ集『亜米利加ニモ負ケズ』(日本経済新聞出版社)、『アーサーの言の葉食堂』(アルク)、絵本『さがしています』(童心社)、『ドームがたり』(玉川大学出版部)、翻訳絵本『どうして どうして?』(小学館)、『はじまりの日』(岩崎書店)、『みんなみんないただきます』(ビーエル出版)、『なずな このっぺ?』(フレール館)、ほか多数。

文化放送「アーサー・ビナード 午後の三枚おろし」に出演、RCCテレビ「イマなまっ!」にコメンテーターとして出演している。



アーサー・ビナード氏

お問い合わせ・講演会の申込

## 広島市立中央図書館

広島市中区基町3番1号

TEL 082-222-5542 FAX 082-222-5545

<http://www.library.city.hiroshima.jp/>

